

全国農政連推薦・農政連公認  
参議院議員藤木しんやの

## 永田町でも百姓宣言

### 令和5年秋の農政議論のポイント

#### 【令和5年度農林水産関係補正予算】

令和5年度農林水産関係補正予算総額は、8,182億円(令和4年度…8,206億円)と、昨年とほぼ同額で閣議決定されました。中でも「畑地化促進事業」については、前年度3倍の750億円が措置され、要件を満たし採択保留となっている全の方に対する支払いの用途が立ちました。その他、野菜種子等を含めた農業生産資材の国産化支援や高温障害等急激な気候変動への対策、物流2024年問題、適正な価格形成と国民理解醸成に向けた施策など、食料安全保障の確立に向けた各種対策が講じられる結果となりました。

#### 【収入保険と野菜価格安定制度の同時加入】

収入保険と野菜価格安定制度の同時利用について、早期加入者や他産地・農家間の公平性の観点から、同時加入は令和6年度利用者まで(R7以降は同時利用期間の設定なし)とする旨に加え、①R3同時利用開始者はR5で同時利用終了②R4・R5同時利用開始者は3年間の期間が設定③R6同時利用開始者は2年間の期間を設定(今回新設定)の3点が確定いたしました。農水省は同時利用者が多い県を中心に、共済組合と協力し産地に向いて個別説明する見通しです。

「不測時における食料供給確保対策に関する新法制度」

今国会において農林水産省提出法案はありませんが、自民党では「不測時における食料供給確保対策に関する新たな法制度検討PT」が開催され、計3回の会議後にとりまとめを作成する方針です。元農林水産大臣の野村哲郎議員がPT座長として、「食料・農業・農村基本法」とは別の法案として提出を目指し、不測時に必要な施策について、今後、検討が進んで参ります。

#### 【令和6年度農業関係税制改正】

11月21日の令和6年度農林部会税制改正重点要望ヒアリングに始まり、主要項目の審議、〇×審議などを踏まえ、税制改正大綱の閣議決定に向けて議論が進んでおります。私は3班(A…農業経営・農地対策班、B…農林関係産業対策班、C…林業・環境対策班)全てに所属するのみならず、B班班長を拝命いたしました。JAグループの要請事項が全て受け入れられるよう、取り組んでまいります。



▲令和6年度税制改正要望ヒアリング(B班)の様子

全国・農政連推薦

参議院議員山田としおの

## 農政問題に斬り込む

### 飼料作物の

#### 自給率を高めよう

#### 〈子実用とうもろこし栽培視察〉

2023年10月に富山県小矢部市で子実用とうもろこしの栽培の実態を視察してきました。

「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」において、国は「小麦や大豆、飼料作物など、海外依存の高い品目の生産拡大を推進するなどの構造転換を進めていく」としています。

これを受け、国内においても、飼料作物、とりわけ子実用とうもろこしの作付け拡大が進んでいます。十分な収量が確保できず、所得が確保できない等の課題が見受けられます。

JAグループでは、子実用とうもろこし等飼料作物の増産がはかられるよう、政策提案等において国に要望していますが、生産現場における課題等を把握する目的で、富山県小矢部市で子実用とうもろこしを作付けている圃場等を訪問し、収穫作業を視察するとともに、若手農業者との意見交換会を行いました。

子実用とうもろこしは、比較的作業時間が短くて済み、連作も可能で、有望な飼料作物です。収量を上げるには畑地化する方が良いのですが、

畑地化してしまうと水田活用直接支払い交付金が打ち切られてしまうことや、麦や大豆のようにゲタが無いので、品代だけでは経営が成り立たず、さらには生産を拡大するためには、政府の支援が必要とご要望をいただきました。

また、子実用とうもろこしは、収穫後の乾燥・粉砕・保管が課題となるので、JAを中心に受け入れ態勢を整えてくれると、生産者は助かるとの声も聞かれました。

農地を農地として利用する観点から、重要な作物ですので、制度面での支援はもとより、JAが中心となって地域としての支援体制を構築していくことが必要です。



▲子実用とうもろこし栽培を視察